

EALGA

環境情報流通実証実験 川下企業事例紹介

沖電気工業株式会社
羽賀 和清

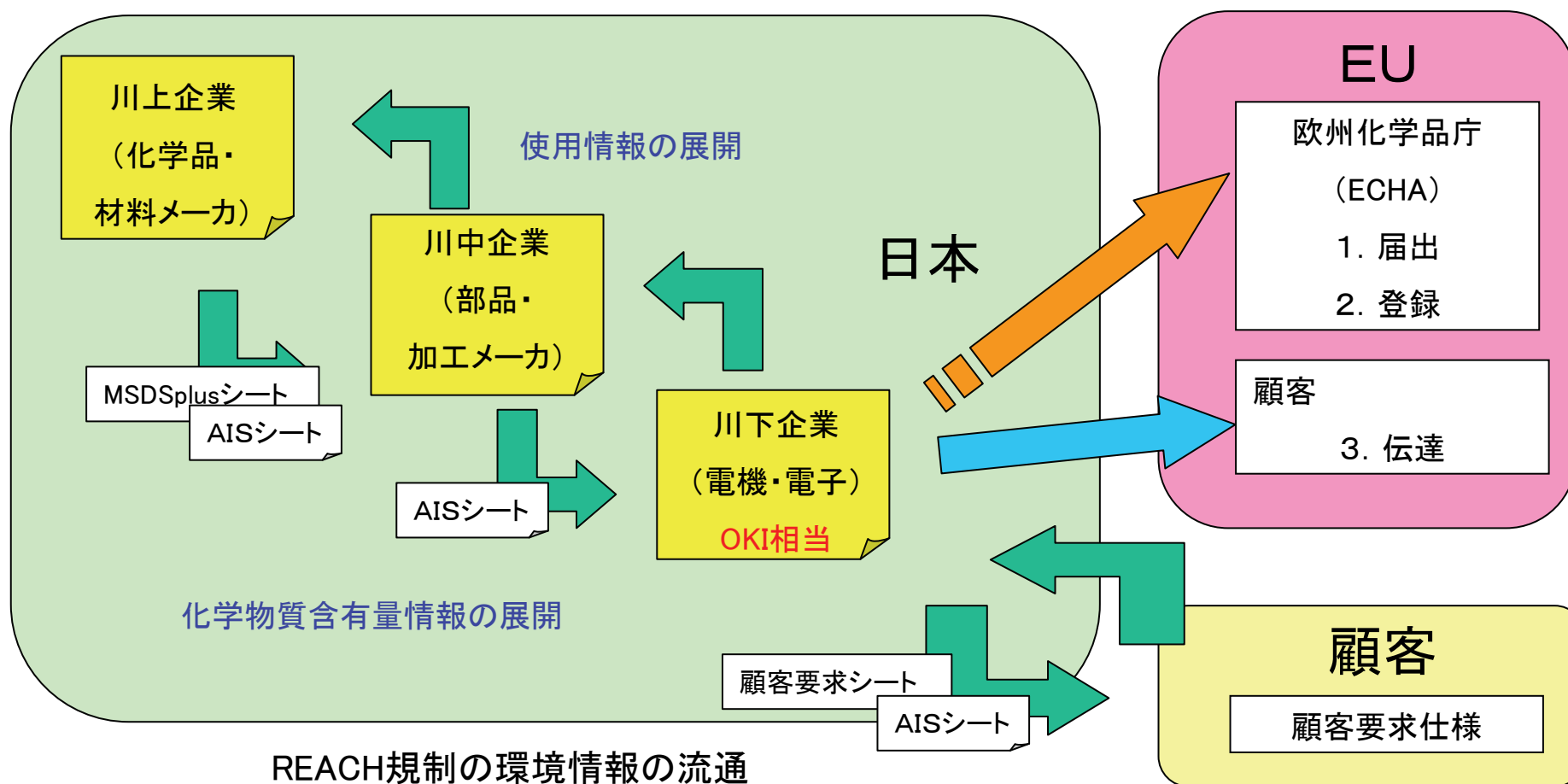
JEITA
EC CENTER

目次

1. REACH規制の環境情報流通
2. 川下企業として環境情報流通について
3. OKIの製品含有化学物質情報システム
4. 実証実験パターン(川下企業)
5. 検証の内容と結果
6. 課題(実用化に向けた考察)
7. 改善(実用化に向けた考察)

1. REACH規制の環境情報流通

- ◆川下企業がEUに輸出していれば、業界全体のサプライチェーンのほとんどの企業が情報伝達の対象になる。
- ◆川下企業でも顧客仕様の要求があれば、製品のAISシートを展開しなければならない。



2. 川下企業として環境情報流通について

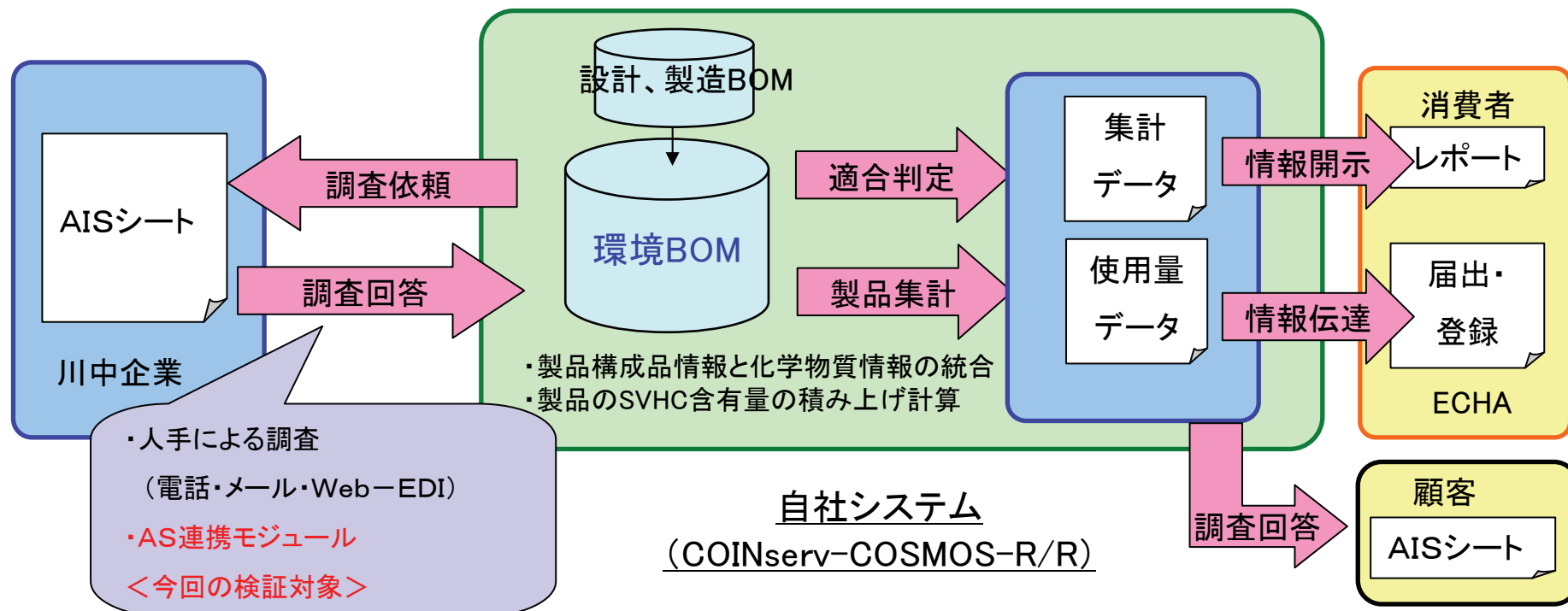
・製品化学物質含有量の把握

- ① サプライヤ調査: 構成する部品・部材・加工品などの化学物質含有データの川中企業からの入手。
- ② 製品集計、使用量管理: 入手した含有データより製品化学物質の含有量の積み上げ、使用量の算出。
- ③ ECHA・顧客対応: ECHAへの登録、届出するためのEU域内販社への情報伝達
消費者からの要求による情報開示

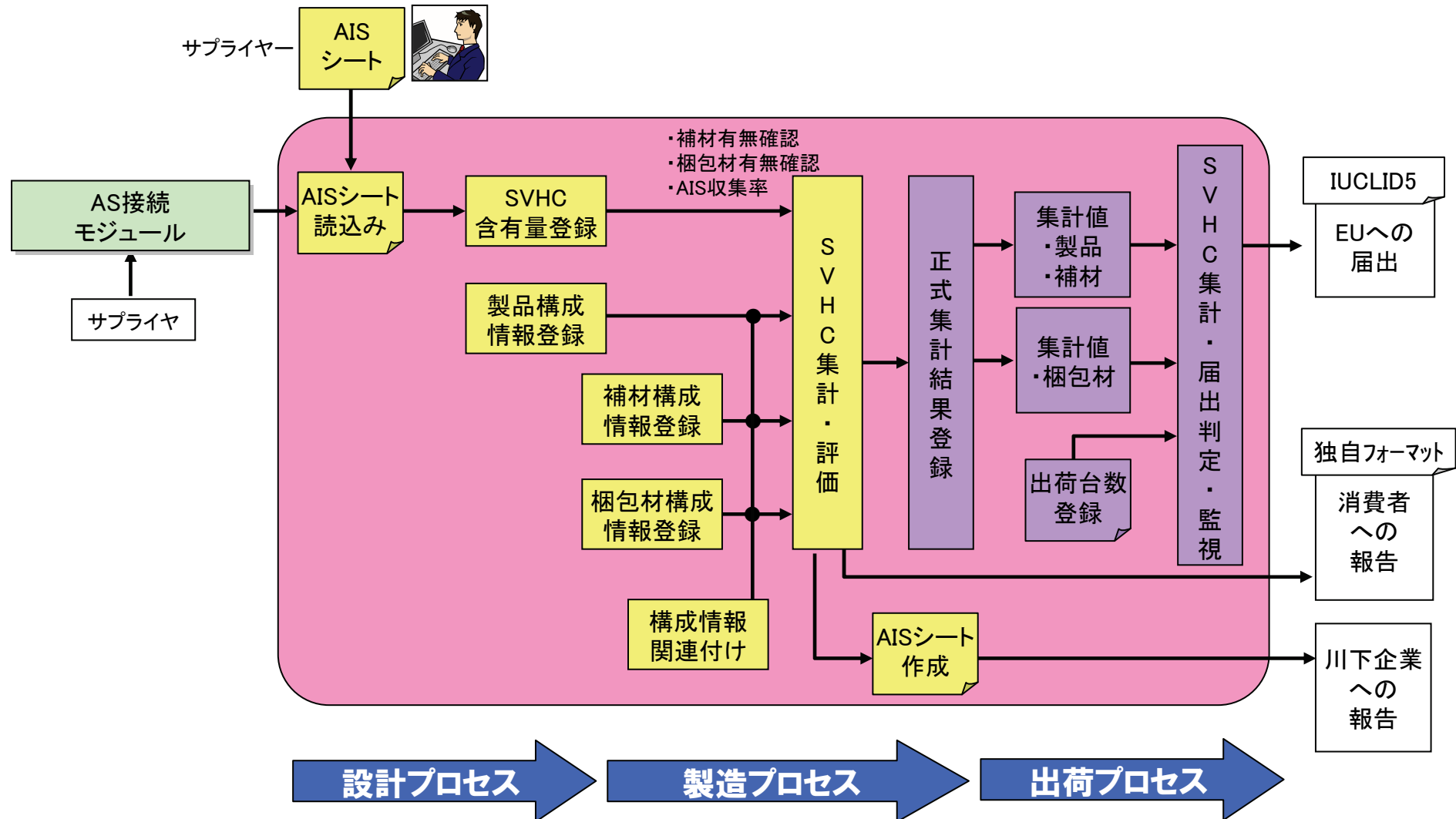
① サプライヤ調査

② 製品集計、使用量管理

③ ECHA・顧客対応



3. OKIの製品含有化学物質情報システム



COINServ-COSMOS-R/R

3. 化学物質管理システム(利用例)

業務概要

化学物質情報収集
プロセス

- 購入品の含有化学物質データ調査と登録
- 調査データのクレンジング(エラーチェック)
- 調査進捗管理と未調査データに対する調査依頼

設計評価
プロセス

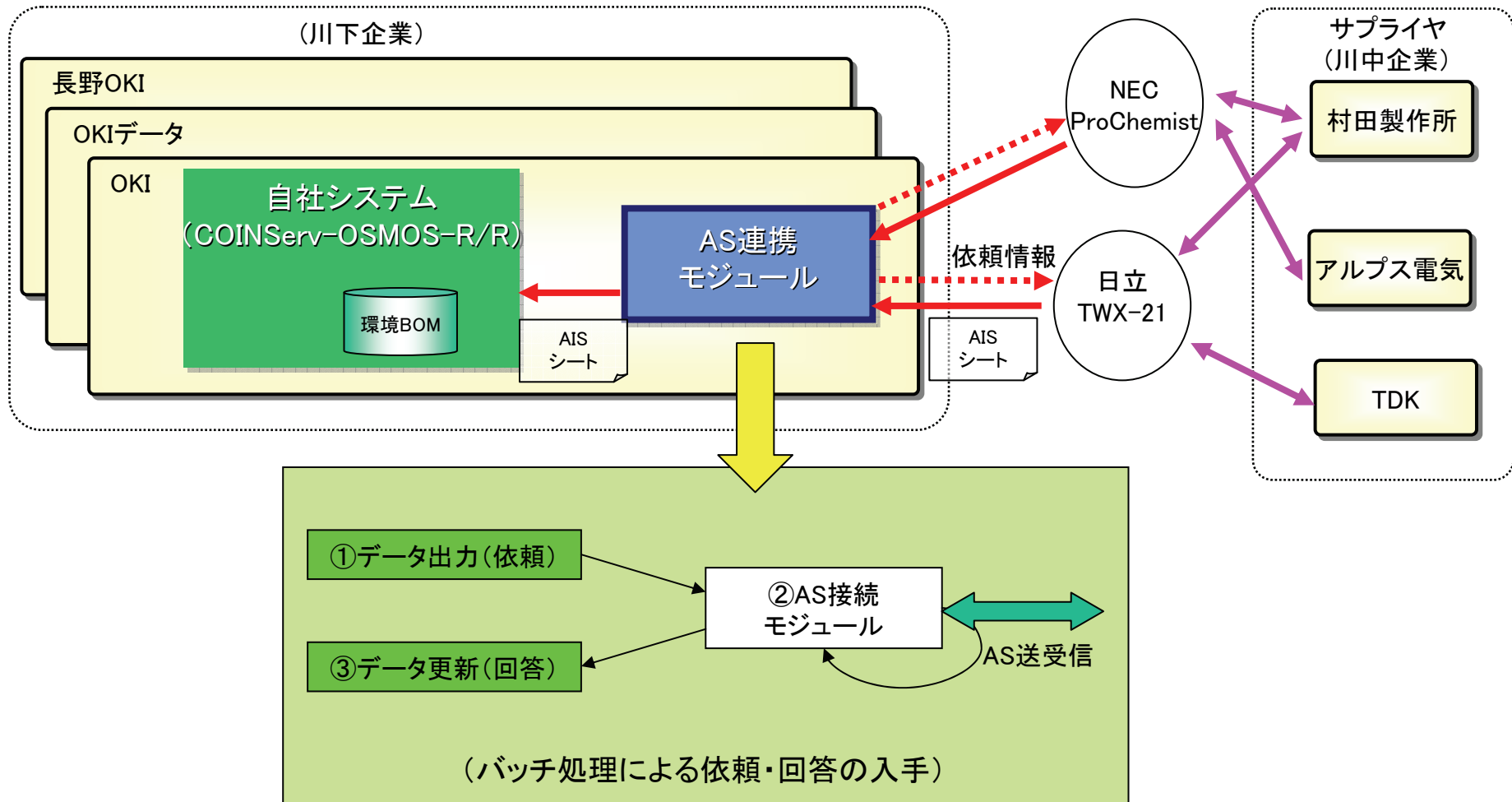
- 構成情報登録/編集
- 自社設計品の含有化学物質データ登録
- 製品の含有化学物質データの評価

製品情報報告
プロセス

- 製品(捕材、梱包材を含めた)の含有化学物質データの評価
- REACH判定とEUへの届出
- 川下企業/ EU消費者への製品情報提供

4. 実証実験パターン(川下企業)

目的: ◆サプライチェーンでのAIS環境情報の流通性の確認
◆実用化に向けての課題抽出



5. 検証の内容と結果

- ・商用ASとの接続、および、川中企業との環境情報交換を行い、AISシートの入手が可能になり、良好な結果が得られた。
- ・自社システムへ取り込みを行い、良好な結果が得られた。

評価項目	評価内容	評価結果	課題・改善点
AISツール	基本機能を確認する。	○	
	JEITA拡張機能を確認する。	○	
	JAMPとの互換性を確認する。	○	
環境情報の流通	商用ASと接続する。	○	
	AISシートの情報交換を確認する。	△	①メーカー・自社の品番との関連付け ②調査先の特定、交換情報項目の整合 ③コマンドインタフェースの共通化
自社システムとの連携 (COINServ- COSMOS-R/R)	AISシートの取り込みを確認する。	△	④自社管理情報との関連付け
	構成情報の生成を生成する。	○	

6. 課題(実用化に向けた考察)

①. メーカー・自社の品番との関連付け

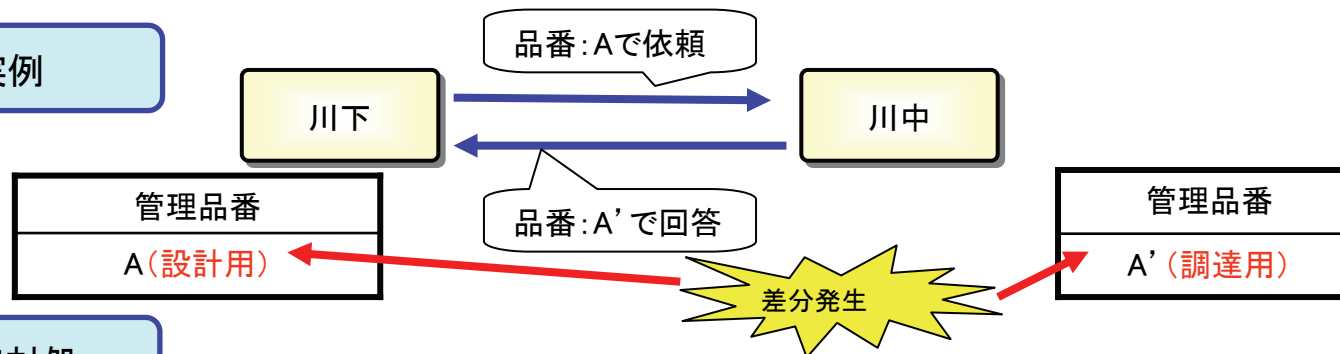
課題

・川中ー川下企業間で、対象品番の特定が出来ない。

原因

・メーカー・自社の品番管理情報に差分があったため。

実例



暫定対処

・川中企業での沖グループ全体の品番検索を行い、該当する近い部品を選定する。

今後の対処方法

- 案1: 品番をどのようなコード体系で情報交換するか、事前に会社間(TPA)で取り決めを行う。
- 案2: 社内(メーカー)での品番を統一的なコード体系にする。
- 案3: 情報交換するフォーマットの中に、調達(資材部門)などのコードを詳細情報を付与して識別する。
- 案4: 業界での品番の標準化

6. 課題(実用化に向けた考察)

②. 調査先メーカーの特定、交換情報項目の整合

課題

・交換情報項目の整合をしなければ、依頼先へ依頼内容が十分に展開されない。

原因

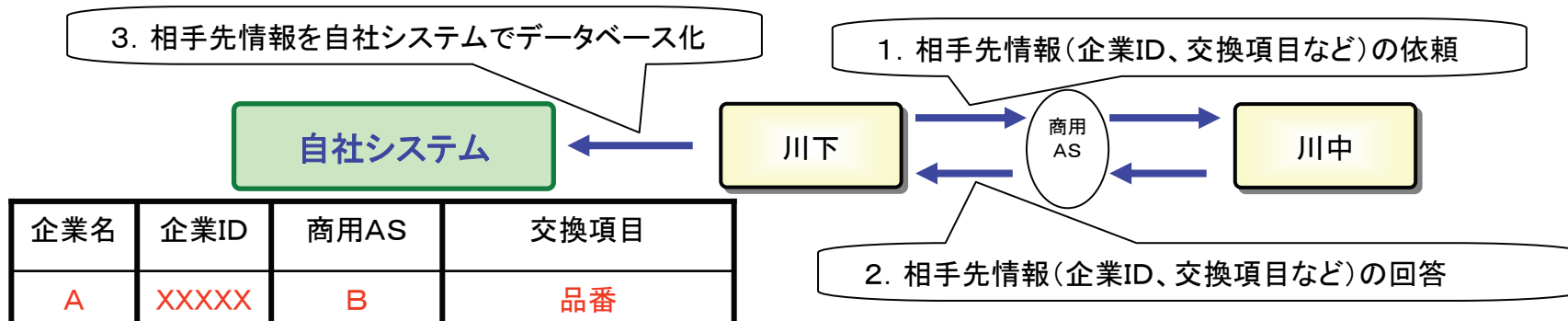
・調査先の企業ID、利用AS、交換情報の項目を展開していなかったため。

暫定対処

・商用AS接続時に参加企業間で企業ID、利用ASの情報、交換情報の項目内容を交換した。

今後の対処方法

案1: 事前に会社間(TPA)で取り決めを行い、自社システムで依頼先の情報をデータベース化する。
案2: ASにて依頼先の情報を検索できるようにする。



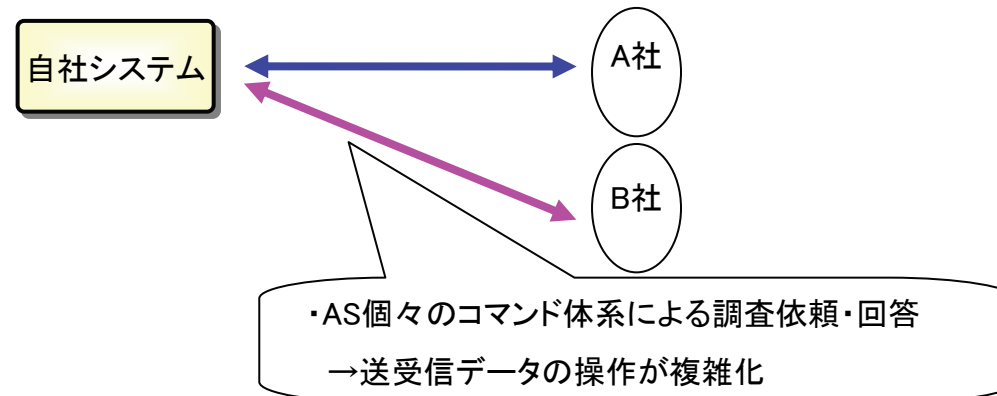
7. 改善(実用化に向けた考察)

③. コマンドインターフェースの共通化

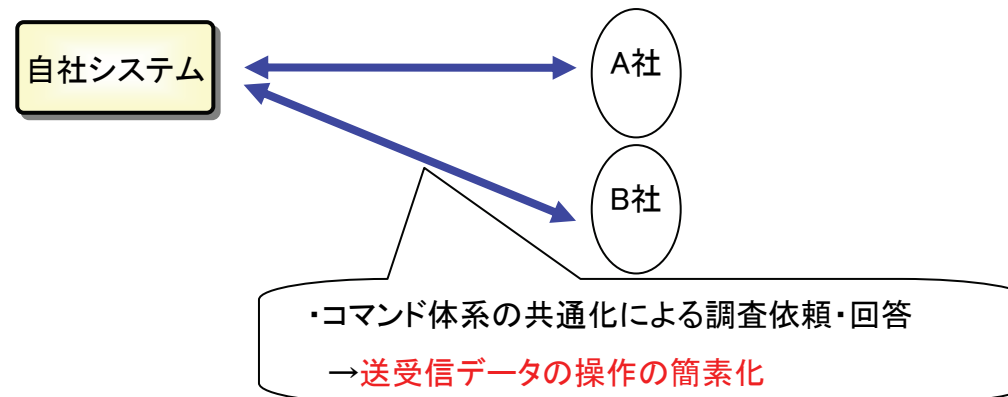
改善

・商用ASのコマンドインターフェースの共通化が出来れば、連携モジュールの簡素化する。

実証実験時



今後の対応



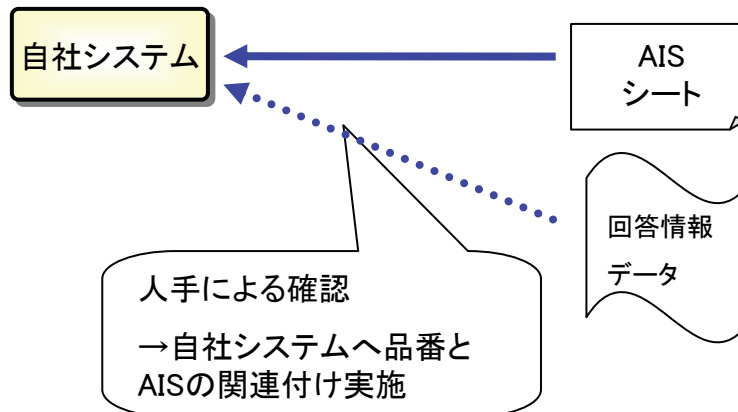
7. 改善(実用化に向けた考察)

④. 自社管理情報との関連付け

改善

・AISシートの取り込み時に、商用ASの依頼・回答情報と自社管理情報との関連付けが出来れば、自社システムへ取り込みが簡素化する。

実証実験時



今後の対応

